



JASH

2021
No. 31

だより

Japan Alumnae Association of
the Sacred Heart

AMASC会長より2020年5月25日
聖マグダレナ・ソフィアのお祝い日
よせて送られたイラスト



JASH Web サイトで新連載

「シスターからのメッセージ」がスタートしました

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的な蔓延の為、様々な制約を強いられる一年となりました。JASHでは聖心会日本管区のシスター方からメッセージを頂戴し、JASH Web サイトへの掲載を始めました。メッセージが皆様の「新しい日常」を始める道しるべとなることを祈っております。

【座右の銘・お好きな言葉】

"Life is a mystery. We discover the meaning of life and the mystery of life, not through solving problems, but living them." (人生とは神秘である。私たちは問題を解決することではなく、その問題を生きることを通して、人生の意味と命の神秘を見出すことができる。)

若い時にあるシスターから教えていただいた言葉です。人生の途上において、人はさまざまな出来事に出会います。時には苦しく悲しい出来事に出会い、問題を必死で解決しようとします。しかし、命や人生にかかわる問題は、そのことと共に生きることを通して、新たな次元に導かれ、人生の本当の意味を見出すことができるようになるのだと思います。どのような出来事にも何一つ無駄なものはなく、その中で共に生きておられる神の語りかけにじっと耳を傾けて生きていくことを通して、一人ひとりに与えられた命の神秘に気づかれます。

【Message】

COVID-19は人間の在り方・生き方への大きな課題を、私たちに投げかけているのではないのでしょうか。人や社会との「関わり」を再構築するために、どのような新しい生き方に向かっていくかが問われているように思えてなりません。すっかり定着した感のある「Social Distance」の意味することはあくまでも「Physical Distance」(身体的距離)であり、人間同士の温かい心の交わりを切り離すことは不可能です。それどころか、新しい「心の距離」を生み出していくこともできると思います。小さな思いやりの輪が生れ始めているという嬉しいニュースに接し、今回のコロナ禍は新しい時代に向けての大きなチャレンジであることを感じずにはいられません。社会の現実を目を開き、孤立し、苦しんでおられる方々に思いを寄せ、何らかの働きかけができますようにというのが、今の私の願いです。

【座右の銘・お好きな言葉】

"Leave the past 'to the mercy of God', the present 'to His love', the future 'to His providence'." (Trappist, Kentucky).

裾野の修練院から初めて大学に来た時、院長のシスターから受けたカードです。西も東もわからない中、過去は変えられないし、未来はわからないけれど、今を生きることが出来る。それが未来につながる、と教えてくれました。10月に誓願立60周年を迎えましたが今もこの言葉は生きています。

【Message】

新年がコロナ禍の年になるとは誰が想像したことでしょう。私の頭に浮かんだのは、美しい地球が菌に侵されて痛みの中にいるイメージでした。私たちも感染予防のため「新しい生活様式」を求められています。社会に目を向けると、どのような訴えを聞くでしょうか。その一つは悲しみの共有です。亡くなられた方たちの葬られる前の姿、最後の別れが叶わなかったご家族の悲しみは、悲しいニュースと呼ぶだけでは済みません。共に悲しむ心が求められていると思うのですが、易い事ではないでしょう。しかし心の中には自分なりの寄り添い方が必ずあり、それを通して悲しみの中にいる方達と共に居ることができるのではないのでしょうか。社会の訴えは教皇フランシスコにも響いていると思います。『パンデミックからの遅々とした困難な回復を待っている今は、遅れて背後にいる人々を忘れる危険があります。より悪質なウイルス、無関心なエゴイズムというウイルスに侵されるかもしれない危険です。』このようなメッセージに私たちは一致したspiritのうちに応えていくことができますように。「コロナの詩」の一節を祈りのうちに分かち合しましょう。「…私たちは今よりよく理解することが出来る。私たちは皆つながっている、ということが何を本当は意味するのかを」。



宇野 三恵子
(み 54・宮 23)

聖心女子学院、不二聖心女子学院、小林聖心女子学院教諭。札幌聖心女子学院及び小林聖心女子学院校長を経て、現在、聖心会日本管区管区長、学校法人聖心女子学院理事長。

【座右の銘・お好きな言葉】

「聖霊を追い越さないで」

私は生来せっかちで、よく考える前にすぐに反応したくなります。そういった時にブレーキをかけるのは学生時代にマザー・ブリットから習ったこの言葉です。これは、聖マグダレナ・ソフィアの有名な言葉、「もし私が一生涯をもう一度繰り返すことになったら、ただ聖霊のささやきにのみ耳を傾けて日々を送りたいと思います」に通じるものではないかと思います。

「聖心の子どもは一人て天国へ行ってもはいけません」

この聖マグダレナ・ソフィアの言葉は、大勢の卒業生によっていろいろな形で実践されています。私はこの言葉を「何か良いことをお友達と一緒にしましょう」と解釈し、福島県の被災地訪問、五島の巡礼、吉成麻子さんのファミリーホーム訪問などに友人たちを誘って行きました。コロナ禍が収束したらまた何かの形で続けたいと思っています。

【Message】

コロナ禍による自粛が始まって数カ月もすると、出づ精な私も自分の心の視野が狭くなったような鬱陶しさを感じ始めました。失業その他生活を脅かす状況に陥っている方々のことを思えば、贅沢な悩みですが、そこで考えたのは視野を広げる代わりに、内に深める時にしたいということでした。言い換えると、神様がこの体験を通して私に何を伝えようとしていらっしゃるのか、そのメッセージを聞こうということです。外出自粛で身辺整理をする人が多くなりゴミの収集が増えたと聞きましたが、私も今そこの中の整理整頓をしよう、そう思ってこれまでうすうす気付きながら目をそらせていたものに直面すると、どんな修理が一番必要か見えてきました。皆様もこの際、心の中のお掃除、模様替えはいかがですか。重い物を運ぶ時は、神様が力を貸して下さいと思います。



田中 玲子
(み 44・宮 13)

不二聖心女子学院、小林聖心女子学院教諭。聖心女子学院校長を経て、聖心女子大学で英語学、英語教育学、教育実習などを指導。現在、JASH理事、聖心会代表。



大橋 保子
(み 34)

聖心女子大学英文科教諭・学生部長。小林聖心女子学院教諭。聖心女子大学学生相談室・臨床心理士カウンセラー。

【座右の銘・お好きな言葉】

「見えるようになりたいのです」(ルカ福音書 18、41)

聖書からの好きな言葉です。

人間の目は色々見えています。見えているつもりです。でも、見る対象は人によって、時によって、年齢によって異なると思います。年齢が進むにしたがって見えていたものが良く見えなくなる反面、若い時に見えなかったものが見えるようになることを皆様もお気づきではないでしょうか？

「見えるようになりたい…」は心の目を真なるものに向かって開いてください…との叫びのような気がします。今見えているものがすべてではなく、地球上の豊かさを、人間の神秘をもっともっと「見えるように」していただきたいと願ってこの言葉を選びました。

【Message】

1958年(三光町の創立50周年の年)初めて三光町で「聖心」の教育に携わらせていただきました。

現在、小林のロザリオにある修道院に住み、九十に手の届く年になりました!!! 今、コロナ禍によって世界中が苦しんでいます。ここには何かメッセージがあるのではないのでしょうか。電子機器が進歩し、人間が何でも解決できるとの傲慢にみちた錯覚の中で、人間の力で及ばないことがあることを知るように、そしてお互いの協力と支えあひの間に人類の幸せがもたらされるということを忘れないようにとの…。私たちが、毎日、「世界中のコロナに苦しむ方々のために」一日も早い終息を願ってお祈りしております。

みなさまのご健康、ご活躍、お幸せを心からお祈りしております。



景山 佐和子

聖心女子学院、不二聖心女子学院、札幌聖心女子学院教諭、JASH理事、聖心会管区本部秘書などを経て、現在小林聖心女子学院アーカイブ担当。

JASH会長挨拶

日本聖心同窓会会長

村上 直子 (み 59・宮 28)



新型コロナウイルス禍の中、医療、教育、福祉、介護等の困難な現場で活動されておられる方々はもとより、その方々を支えておられる皆様等多方面で聖心スピリットをもって活動される全てのJASH会員に感謝の意を表します。2020年、未曾有という言葉がこれほど繰り返される1年になるとは誰が予想したでしょうか。「新しい日常」「Social Distance」などの新語が登場し、固定観念を改める一年ともなりました。様々なご苦労や悲しみにあわれた方も沢山おられたと思います。しかし、私達はいろいろな制約の中、できない事を諦めるのではなく、立ち向かい新たな方法を見出し前進する力を持っているのではないのでしょうか。そのような皆様の心の支えとなるべく、シスター方からメッセージを頂戴しました。また、世界と繋がるJASHの大きな特徴を活かし、各国に滞在中の会員方に現地のレポートをお願いしました。JASHだより31号は、困難に立ち向かいながらも活動される同窓生達と体験を分かち合い、記憶に留めていただくため、日頃とは異なる紙面といたします。

JASH 名誉会長挨拶

聖心会日本管区管区長

シスター 宇野 三恵子 (み 54・宮 23)



2020年は、まさにCOVID-19に翻弄された一年でした。100年に一度というような世界的緊急事態の中、制約の多い生活の中にも、創意工夫による新たな発見があったり、人との関わり方に新しい可能性が広がったりと、考えさせられることが多くありました。

学校教育においては一挙にICT化が進み、オンラインによる授業や学習サポートという、新しい学びのスタイルが定着していきましました。しかし、ネット上の空間を共にして学ぶことができるという体験は、教育の可能性を広げたものの、物理的に共にいることの素晴らしさには代えられないということにも、気づかされたのです。

先日、シスター渡辺和子の著書『置かれたところで咲きなさい』の一節を、ふと思い出しました。「置かれたところで咲きなさい。」でも、「どうしても咲けないときは根を下へ下へと伸ばしましょう。次に咲く花がより大きく、美しいものとなるように。」これは、まさに、今の私たちへのメッセージではないでしょうか。活き活きとできない閉塞感溢れる状況にあって、忍耐強く日々の生活を営み、深く考え、新しい世界を待ち望むこと。こうした姿勢が強い根っこを育て、次の生き方に繋がっていくのだと改めて感じています。

COVID-19 レポート (2020年12月現在)



From New York

内科研修医が見た惨状 コロナ患者で溢れ返る病院

陳 佳奈 (み 86)

私はNYクイーンズ州の病院で内科の研修医として勤務している。3～4月は会議室にもベッドが搬入されて簡易の病室となり、病院はコロナ患者で埋め尽くされた。苦しむ患者が所狭しと並び、地獄絵図のようだった。毎日患者の急変や心肺停止を告げる館内放送が頻繁に鳴り響き、その多くが家族に看取られる事も出来ずに亡くなった。そんな中私の夫の感染が判明、その翌日私自身が座る事すら辛い程の倦怠感に襲われ、コロナ感染が判明。幸い熱と倦怠感で済んだが、食べる事も出来ない位弱り、3日3晩寝込んだ。3歳の娘は上の階に住む義両親に預け、2週間完全隔離生活を送った。その後義両親の仕事も再開。保育園は閉鎖、皆コロナ感染を恐れて医師がいる我が家には近づきたがらず、ベビーシッター探しに苦労した。コロナ禍中は街に車も人もおらず、ゴースタウンのようだった。現在は街も少しずつ活気を取り戻している。前回のよう

NYの日本料理店「MIFUNE New York」から届けられた医療従事者への食糧支援



From Chicago

それぞれの立場から全力投球で 暮らしを続ける会員たち

オスターマン 津恵 (み 61・宮 15)

シカゴは、中西部イリノイ州の大都市です。同州の人口は1,267万人。州内のCOVID-19感染者数は、現在100万人をはるかに超え、死者は、2万人を超えています。このような世の中で、JASH会員の集いは、会合を控えています。高齢な会員は、ハイ・リスク故、なるべく外出を避けていますが、実際に日常生活で大きな影響を受けているのは、現役の会員達です。在宅勤務中や休業中の会員の他に、リモート授業を受ける子供たちの世話をする母親達にとって、毎日が不安定になりました。一方、乳癌の手術を受けて回復した会員、孫の世話をするため、他州へ7時間運転して通っている会員、野菜栽培に力を入れ、新鮮な野菜をフード・パントリへ届けている会員は、夫々の立場から、全力投球の構えで暮らしています。そして、なんとと言っても、こころばかり、日本へ自由に行けなくなり、里の高齢の親兄弟たちのことが気になる毎日です。(感染者数は2021年2月25日現在)

リモート授業を受ける様子



お孫さんと



From Arizona

猛暑とコロナの ダブルパンチに見舞われる

大地 浩子 (宮 15)

今年のアリゾナは記録破りの暑さが続き、コロナとのダブルパンチでした。

動きの取れない毎日を、家の中やお庭の作業に精を出していた方達。用事で一旦シカゴに帰ったらコロナ騒ぎで戻って来られなくなったsnowbirdのOさん。お孫さん達のお世話の為に前年日本に行って、日本の方が安全かとずっと日本にいらつしやるKさん。コロナの為に仕事の方も暇だからと、体調を崩されたお母様のお見舞いに日本行きを決行されたHさん。これが大変。関空便がキャンセルされ、成田に着いても公共の交通機関が使えないので乗り継ぎ便にさえ乗せてもらえず、レンタカーで関西まで運転して行かれたそうです。1か月近く滞在中、お母様もお元気になられたようで良かったです。

アメリカ⇄日本はどちらの国も入国後、公共機関は使えず、更に2週間の自己検疫を課していましたから、大変な苦労を経て移動するか、移動を諦めるかの年でした。



自粛と管理でコロナ拡大を食い止め、観光客の受け入れも始まる

萩原 美保(ド30・宮38)

タイは2020年3月末に非常事態宣言が適用され、バンコク市内からは人が消え今まで見たことのない光景となりました。厳しい自粛と徹底した衛生管理のお陰でコロナの拡大は食い止めることができ、5月から徐々に規制が緩和され、7月には生活はほぼ平常に戻りました。8月からは14日間の隔離生活という条件つきで海外からのビジネスマンとその家族の受け入れが始まり、また学校も再開されました。現在はデモにより多少の影響はあるものの、イベントも行われるようになり安心安全な環境で過ごすことが出来ています。

昨年末にバンコク支部を発足してから集いのタイミングを待っていましたが、お陰様で10月31日に念願の同窓会をバンコク市内で開催することが出来ました。

コロナ禍の自粛生活は振り返るほど過去のものになりつつあります。悪化した経済を回復させるため10月から観光客の受け入れが始まっていますが、今後も落ち着いた状況を願う日々を送っています。(2020年10月執筆)



非常事態宣言で人が消えたショッピングモール

Say NO to hugs

朝倉 晴子(宮22)

国土面積は日本の21倍、人口は日本の5分の1。人口の大多数は都市圏に集中しているとはいえ、日本とは桁違いに、広大な地域に拡散して暮らしているし、公共施設や商業施設も広々として、各家庭のみならず、大抵の屋内施設で、ソーシャル・ディスタンス(1.5m)を守るのは現実的にはそう難しくない。でも難しいのは、ここの人々の生活習慣。握手はもちろん、家族や親しい友人間の挨拶にキスやハグ(抱き合う)をするのが当然の社会では、それをしてはいけないと言うのが、頭で納得していても、体が受け付けず、守るのが難しい。と言うか、守ろうとしてイライラが募っている様子。政府の広報スローガンには“Say NO to hugs”が、1.5mの間隔保持と手洗いの奨励とともに挙げられている。

シドニーのあるNSW州では、現在(9月25日)自宅に人を招く場合は10人以内が望ましいが、20人の上限付き。20人を超えた場合、招待主のみならず全員に各1000ドルの罰金が規則。(単に円に換算すると8万円ぐらいになるが、感覚的には日本の10万円ぐらい。)



家族ぐるみの同窓会(2019年会員宅)

災害に遭ってもイノベーションを起こそうとする人たち

池田 綾香(み93・宮62)

アメリカ西海岸に位置するカリフォルニアですが、今年はコロナ感染拡大だけでなく山火事や人種差別をめぐる社会運動の広がりなど、厳しい一年となりました。

その中でもベイエリアらしく、課題の多い状況乗り越えようと様々な企業がイノベーションを起こそうと奮闘しています。テック企業が多いベイエリアですが、マウンテンビューと呼ばれる小さな街ではフードデリバリーの無人ロボットが走っていたりと、様々なビジネスが形を変えて、生活に溶け込んでいるように思います。



フードデリバリーの無人ロボットが街を走る

■BASHの活動

毎年恒例だったBASHの集まりも今年は中止となりましたが、前向きな地元コミュニティの取り組みに学んで、BASHもオンラインの取り組みを行いたいと考えております。11月後半に、初めてのZoomリユニオン会を開催いたしました。メンバー同士の近況報告に加えて、ウィズコロナでのBASH会合のあり方や現在の課題にどう取り組んでいけるのかを、参加者で話し合いました。ベイエリアと共にBASHの活動も、より良いものへと進化できるよう邁進してまいります。

海外における「JASH 会員の集い」より

ウイルスとの戦争の中で広がった人々の優しさと絆

林川 友香(旧姓 佐藤)(み73・宮42)

「これはウイルスとの戦争である。」とマクロン大統領が発言し、とても厳しいロックダウンに入ったのが今年の3月でした。我が家の息子達はすぐにオンライン授業となり、突如私は山ほど送られてくる学校からの課題を担う先生と化し、その傍ら家族5人分の食事を作り続け、今思うとオーバーですが、命を懸けてスーパーに出かけました。誰にとっても大変な日々でした。普段は自分勝手に見えるフランスの人々ですが、感染拡大の強い郊外北部では、若者たちが貧困者への食料提供や身体障害者への支援を行い、また午後8時には全国一斉に医療従事者への感謝の念を窓から拍手で称え、私の周りではママ達がタルトを作って各地区で集め、病院に届けました。子供達は、“MERC”を様々な形で作り撮影し、病院に送りました。また三男(9才)のクラスでは希望者と老人ホームのお年寄りへペーに、メールや電話で交流するプロジェクトを生徒自ら立ち上げました。お互い励ましのメッセージがSNSで日々駆け巡りました。在仏20年になりますが、「フランス、意外とやるなあ」と驚きつつ、他者への敬意とはこういうことかもしれないと思いました。

まさかの2度目のロックダウンとなったパリの空はまたひどく青く美しいです。



人の姿が消えたパリ、シャネルゼ通り

ヘイトクライムに毅然とNO! を示した生徒たち

澤田 麻希子(旧姓 吉田)(み92・宮61)

現在ドイツでは昨年11月から1ヶ月に渡る部分的ロックダウンを経て、クリスマス期間より更に厳格なロックダウンが実施されています。具体的には、スーパーや薬局といった閉鎖的空間における医療用マスクの着用義務、接触制限(集会は自らの世帯に加えゲスト1人まで)、移動制限(行動範囲は自宅から半径15km以内)などがありますが、人権や自由を殊に重んじるドイツ人の約65%がこれらの規制を支持している点について、驚きとともに率直に感心しています。

想像もしていなかった生活が続くなかで、個人的に強く印象に残っている出来事として、子供達の通うインターナショナルスクールの生徒の有志たちが昨年2月中旬に撮影した「コロナウイルスによる差別にNO!」と言う動画が挙げられます。当時アジア人に対するヘイトが各地で起こっている状況に対して、瞬時に連帯を示す機動力は、多様性を重んじるインターナショナルスクールならではのカルチャーが培ったものではないかと感じました。このコロナ禍を異国の地で、そしてアジア人として経験し痛感したマイリティーの人々の生き辛さと、それを遙かに凌駕する人種を超えた思いやりは、まだ幼い子供たちにも今後語り継いでいきたい貴重な人生の糧となりました。

ワインバーの入口におかれた手指消毒液



聖心生が地域貢献者として表彰を受ける

清水 幸枝(小み72)・佐伯 祥子(み88)

イギリスでも猛威を奮っている新型コロナウイルス(COVID-19)は、私たちの認識を様々な角度から変えていくことを余儀なくさせています。約50名おります英国聖心同窓会も現在、開催が難しい状況にあり、日頃、ボランティア活動に力を入れておられる会員の方々からも厳しい情勢にある旨のご報告を賜っております。

そんな中、倉八泰子さん(三英19)が、St. Vincent de Paul Societyというボランティア団体のプレジデントとして、2010年より毎週ホームレスへの食事支援をなさっている活動は、ロンドンで地域貢献者として表彰されるほどです。

日頃、英国聖心同窓会では、集まりで楽しむだけでなく、あわせて学びの場としております。講演会は、芸術の分野から、神学の分野など、多岐に亘ります。多彩なJASHのメンバーがお互いに刺激し合えればという趣旨で、在英日本大使夫人の長嶺文子さん(宮30)がいてくださることは、心強い限りでございます。聖マダレナ・ソフィア・バラの耐え忍びながらも信じる心を思い起こしながら、早くまた大好きな皆様と、笑顔で再会できる日を心より願っております。



英国聖心同窓会のみんなと

同窓会報告



会長 荻麻里子(茂II・宮33)

コロナ禍において、茂仁香会の活動は、総会・同窓会・友愛セール等の中止或いは形を変えた実施を余儀なくされましたが、全国各地の同窓生からの御芳志により、母校の教育活動にご寄付を行うなど、同窓会活動の新しいカタチに向き合う機会となりました。市内国際交流団体による在住外国人の食糧支援事業では、同窓生の活動に、札幌聖心の後輩がジブンゴトとして物品寄付等の協力を行うなど、卒業生と在校生が繋がりをもって行動する経験となりました。



在校生による物品寄付



同窓生からの寄付

みこころ会

会長 上野愛子(み58・宮27)

今年度のみこころ会はコロナ禍のもと、予定していた活動が次々に中止を余儀なくされました。そのような中で各常任幹事の方々ができる範囲で作業をし、みこころ会会報を発行いたしました。追悼ミサは、シスター、幹事、役員のみでみこころ会館にて神父様に司式をお願いし、ご遺族には式次第をお送りする、という形をとりました。社会福祉活動としての各施設への寄付は、ホームページ上でのみこころ会グッズの販売、卒業生等からの寄付をいただき、例年通り行うことができました。来年度は形式を考えながらできることの範囲を広げていければと考えております。



江部神父様による司式



会員の名札

真理茂会

会長 山屋俊恵(真21)

私も真理茂会の二〇二〇年度は最後の年でした。最後の総会そしてフェアウェルの意味を込めた茶話会も叶いませんでした。真理茂会はこの長い休会に入らせていただきますが「真理が茂る」そして北海道のマリモにちなみつけられた「真理茂」の心は御心の教えを胸に、JASH/AMASCの二員としてマリモの如く密やかに成長し続けることと確信しております。皆様、今までのご厚情本当にありがとうございます。



ある年の友愛セール



三光会

会長 大野美稚子(み72・三英42)

世界中で新型コロナウイルスの流行による大変な状況が続く中、二〇二〇年度は三光会の活動も中止を余儀なくされました。「今、私達に出来る事は何か？」を念頭に役員一同で試行錯誤を繰り返しながら、未来に向けて新しい形・方法で会員の皆様と共に歩んで行ける同窓会作りを目指しております。聖心ファミリーを繋ぐバザーや追悼ミサ等の伝統的な行事は残しつつ、時代に即した発信・交流が出来る平和で安全な日常が一日も早く訪れる事を願っております。



校舎入り口

「聖心ファミリー 姉妹校の輪」

ここは 世界に開かれた窓

札幌聖心女子学院 中学校・高等学校

札幌市中央区の自然豊かな丘の上に学校があります。全校生徒の1/3が寄宿生で、全国から集まっています。中学・高校の入学試験のほか、年間を通して転入・編入試験を行っています。校舎・寄宿舎の見学は随時可能です。事前にお問い合わせください。

ぜひ本校のHP、FBをご覧ください。 **札幌聖心** 検索

聖心女子学院 SEISHIN JOSHI GAKUIN
初等科・中等科・高等科

多様に、グローバルに、より良く生き抜く。

2022年度入学試験

- 初等科1年 入学試験
- 初等科5年 転入・編入試験
- 中等科1年 帰国生入試

<http://www.tky-sacred-heart.ed.jp/>

International School of the Sacred Heart www.ishs.jp
Growing with Courage and Confidence

Three young girls in school uniforms holding books and smiling.

ドウシェーン会

会長 高島 曜子 (下27・宮35)

二〇二〇年は不二聖心の前身となる温情舎が創設されてから百年を迎える記念すべき年です。限られた人数ではありましたが、十月に墓所のお掃除を致しました。刻まれたシスター方、岩下家の方々のお名前にそのお姿を偲び、改めて百年の歴史に感謝の思いが深まりました。清掃後、竹林に整備された十字架の道行きを巡礼しました。多くの同窓生が母校に集いこのような時間を分かち合うことができる日が早く来ることを願ってやみません。



墓地清掃



十字架の道行き

語学校・ISSHアラムネ

会長 Mayling Woo Clements (18)

二〇二〇年は新型コロナウイルスの世界的な蔓延から始まり、今もなおパンデミックにより世界中を悲しませていきます。また、アメリカの大統領選挙により国内外に孕む人種差別の問題が改めて浮き彫りになりました。大きく変化した世の中において、いかにして母校の教えと活動を推し進め、安全な教育を守っていくのか、また人との繋がりをどう保っていくのか私たちが直面する課題です。これまでに蓄積されたある限りの手段を有効に使い活動していきます。



ISSH エントランス



ISSH 校舎

小林みこころ会

会長 立岡 幸子 (小み51・宮33)

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、学院の二斉休校、緊急事態宣言と、活動がままならず、五月の総会も中止となりました。毎月の役員会では対面を一回、ほかには各部からの通信報告となりました。小林みこころ会館も二〇二二年三月末までは感染状況や世の中の動向を見ながらではありますが休館と致しました。毎年十一月に行われていた「ようこそ小林の丘」は、宝塚市のご協力により、「五年を振りかえって」と題したビデオレターを作成していただきました。



静けさのみこころ坂



銀杏に覆われたロザリオヒル

宮代会

会長 ラウリア 佳子 (み64・宮33)

コロナ禍で大学がリモート授業、構内入構禁止時期もあった中、留学生昼食会・宮代会は残念ながら中止になりました。しかし十二月の追悼ミサは、高祖学長司式の下、大学との合同という形式で、理事会メンバーと大学・聖心会代表者のみが参列し厳かに行われました。また多くの会員のご協力により、『宮代』六十七号が予定通り発行出来ました。総会は昨年同様書面開催となり、同窓会も新しい日常への対応が必然となった一年でした。



追悼ミサ



創立
98周年

小林聖心女子学院

2022年度 入学試験

【小学校 入試情報】

- ◇小1入試
- ◇転編入試
- ◇帰国子女・転居による年度途中の転編入については、ご相談ください。

【中学校 入試情報】

- ◇中1入試
- ◇転編入試
- ◇帰国子女転編入試

小林聖心 検索

富士山の裾野に広がる
21万坪のキャンパス

全校生徒の約半数が寄宿生。
20都道府県から生徒が集います。
帰国生の転編入も積極的に受け入れています。



聖心女子大学
不二聖心女子学院
中学校・高等学校
Fuji Sacred Heart School
Middle School & High School

聖心女子大学



再び、学びの世界へ
詳細は公式 WEB サイトをご覧ください。





2020年度

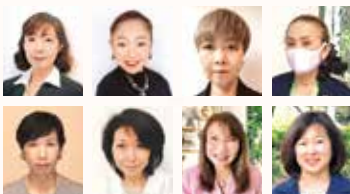
JASHの1年

- 定例役員会 毎月第2火曜日 全11回
- 理事会 隔月第3火曜日 全6回
- 臨時役員会 随時
- JASHグッズ販売
- 古切手処理

2020

- 4 ●三光会総会(2020年4月11日)中止
●茂仁香会総会及び同窓会(2020年4月11日)中止
●第3回スタディグループミーティング(2020年4月18日)中止
- 5 ●ドゥシェーン会総会(2020年5月16日)中止
●茂仁香会東京支部総会/同窓会(2020年5月16日)中止
●みこころ会総会(2020年5月16日)中止
●小林みこころ会総会(2020年5月23日)中止
●定例評議員会(2020年5月26日)オンライン出席
●聖心インターナショナルスクール卒業式(2020年5月29日)オンライン 不参加
- 6 ●三光会チャリティーバザー(2020年6月6日)中止
●第4回スタディグループミーティング(2020年6月16日)中止
●聖心女子大学災害復興支援チャリティデー(2020年6月27日)中止
- 9 ●宮代祭(2020年9月5日)中止
- 10 ●第5回スタディグループミーティング(2020年10月17日)中止
- 11 ●宮代会追悼ミサ(2020年11月17日)非公開につき不参加
●小林みこころ会東京支部同窓会(2020年11月21日)中止
- 12 ●AMASCニュースレターへの寄稿(2020年12月9日)

【2020年度理事】



2020年第4回理事会対面式+オンライン

2021

- 2 ●第6回スタディグループミーティング(2021年2月16日)中止
●宮代会総会(2021年2月27日)中止
●茂仁香会新入会員歓迎会 JASH紹介動画貸出
●ドゥシェーン会入会式 JASH紹介動画貸出
●みこころ会新入会員歓迎会 JASH紹介動画貸出
●小林みこころ会新卒生歓迎会 JASH紹介動画貸出
- 3 ●聖心女子大学卒業式(2021年3月13日)縮小開催の為不参加
●第35回「JASHの日」(2021年3月16日)開催中止
●定例評議員会(2021年3月23日)オンライン出席
●「JASHだより」31号発行(2021年3月31日)

2020年度 理事会メンバー

■JASH名誉会長	Sr. 宇野三恵子	(み54・宮23)
■聖心会代表	Sr. 田中玲子	(み44・宮13)
■JASH会長	村上 直子	(み59・宮28)
■JASH副会長	中込 伊都子	(三英27)
	山田 あけみ	(み60・宮29)
■JASH書記	川辺 祐香	(小み56・宮40)
	伊部 規子	(み76・宮45)
■JASH会計	藏原 由季子	(小み53・宮35)
	蜂矢 淳子	(み64・宮33)
■JASH監事	木村 恵子	(ド19・三英28)
	和田 美紀	(ド34・宮42)
■茂仁香会会長	荻 麻里子	(茂11・宮33)
■みこころ会会長	上野 愛子	(み58・宮27)
■三光会会長	大野 美稚子	(み72・三英42)
■語学校・ISSHアラムネ会長	Mayling Woo Clements	(I'81)
■宮代会会長	ラウリア 佳子	(み64・宮33)
■ドゥシェーン会会長	高島 曜子	(ド27・宮35)
■小林みこころ会会長	立岡 幸子	(小み51・宮33)
■茂仁香会東京支部長	西井 真美	(茂20・宮42)
■小林みこころ会東京支部長	小野島 幸子	(小み57)
■ホスピタリティ委員会委員長	小泉 マヤ	(み62・宮31)
■JASH-AMASC委員会委員長	林 美穂子	(I'88・宮42)
■資料委員会委員長	吉川 富久子	(小み51・宮33)



JASH資料委員会

既にJASHが発行している年表「日本国内聖心女子学院の歩み2008年版」の改訂版の作成を昨年より始めましたが、コロナウイルス流行のため3月から活動を休止、9月からマスクを着用して活動を再開しました。資料委員会では寄贈していただける資料を募集しています。ご協力をお願い致します。

心よりお悔やみ申し上げます。

三田 千世(み 38)

元JASH会長(1983～1989)が2021年1月2日に逝去されました。



海外における「日本聖心同窓会(JASH)会員の集い」

世界各地に日本の聖心同窓生が暮らし、地域ごとにグループを作って親睦を深め、助け合っています。その中でも、右記の地域には「JASH会員の集い」があり、JASHは代表者の連絡先を管理しています。また、宮代会海外支部(シンガポール、ワシントン、南カリフォルニア、シカゴ)でもJASH会員と一緒に活動しています。

海外生活を始める方は、渡航前に、ぜひJASHにお問い合わせください。

■海外「JASH 会員の集い」の所在地

アメリカ合衆国	ニューヨーク サンフランシスコ/ベイエリア シカゴ アリゾナ
英国	
フランス	パリ
ドイツ	
オーストラリア	シドニー
タイ	バンコク



サンフランシスコ



バンコク



アリゾナ

※左記以外の地域で活動されている同窓生のグループがありましたら、JASHにご登録ください。「JASHだより」やJASH Webサイトで、グループの存在をJASH会員に広くお知らせし、新しく渡航される同窓生との橋渡しをします。

※各地の活動報告は、JASH Web サイトに掲載しています。

聖心会 みこころセンター

共に学び、祈り
分ち合う場

〒108-0072 東京都港区白金4-11-1
TEL・FAX: 03-6277-2561
Eメール: rscjmikokoro.center@gmail.com
HP: http://www.m-sacred-heart.com/

学校法人聖心女子学院 生涯学習センター

「いつでも、どこでも、誰でも学べる」それが「生涯学習」です。

2021年1月からオンライン講座を始めました。

<http://www.honbu-sacred-heart.jp/llc/>

第35回「JASHの日」 開催中止のご報告

AMASC 世界大会の東京大会を記念して毎年3月16日を中心に開催される「JASHの日」が、本年度も昨年度に続き新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止のために開催を中止せざるを得なくなりました。この日の開催は中止ではございましたが、心を合わせて新型コロナウイルス感染症に関わる全ての方のためにお祈り致しました。

JASH会員の活躍

ポストコロナの時代を ジュネーブの街角から考える

ブドナ赤松 直美(み90・宮59)

スイスのジュネーブでは、私が所属する国際赤十字・赤新月社連盟はじめ各国国際機関の事務所が新型コロナ対応に追われているところ。人の来行きが規制される中、人的支援のあり方も見直され、各国の赤十字社はじめ地域に密着した支援団体、地方政府を中心とする支援の仕組みの重要性が再確認された一年となりました。私の仕事は地元赤十字社の組織強化ですが、今回の対応を受けて今後当該分野へのテコ入れをはじめ国際支援の在り方の見直しが予想されます。

一方、個人的には新型コロナをきっかけに在宅勤務に切り替わり仕事しつつ家事の日々。家庭を軸とする働き方、妊婦・子育て世代への配慮、オンライン化に伴う役割・部署・国境を超えた働き方等々、働き方の多様性が各国国際機関で急ピッチに整備されつつあります。働く一女性としてはキャリアと家庭とのバランスを取る為には良い潮流、と今後に期待が膨らみます。新型コロナは様々な社会の在り方、支援の在り方、仕事や家族の在り方等多くの問題を提起しているように感じずにはいられません。



食事支援を続け地域貢献者として表彰された同窓会会員

清水 幸枝(み92)

英国聖心同窓会会員には英国でのボランティア活動に力を入れておられる方がいます。

倉八さんはSt. Vincent de Paul Societyというボランティア団体のプレジデントとして、2010年より毎週月曜日の夜にホームレスへの食事支援活動を行っています。2020年1月にメイフェア地区の地域貢献者として表彰されました。2020年3月のロックダウン以降、本活動は休止を余儀なくされていますが、ロックダウンが一時緩和された5月から7月にかけてはロンドントラファルガー広場で週2回ホームレスに食事を提供されました。2020年12月現在、英国は再びコロナ感染者が増え、屋内外での別世帯との接触が制限されている状況ですが、今後の活動再開を目指して準備しておられます。



トラファルガー広場で距離を保ち、食事提供の順番を待つホームレス。



マスクや除菌等コロナ感染防止対策をした上で、食事提供される様子。



Grosvenorホテルにて地域貢献者表彰式の様子。写真中央は倉八さん。

過去10年続けております月曜日夜のホームレス食事支援は3月に英国がCOVID-19でロックダウンに入り、休止になり、残念ながら現在に至っても実行出来ておりません。活動に対して教会の信者の方からの推薦で地域貢献の受賞を致し、本当に嬉しく存じました。しかしこれは熱心なボランティアの援助があったからです。私一人では出来ませんでした。新ホームレス(ロックダウンで仕事を失った方)が増えており、ワクチン接種も開始し、新年に入ってから再度活動が可能であることを願うばかりです。

倉八 泰子(三英19)

from 資料委員会

お宝写真館



1960年代 三光町で使用



使用年代・使用校は不明



お札(オファ)は、校則遵守を始め沈黙、礼儀、整頓など日頃の行いについて生徒一人一人を評価するもので、全世界の聖心女子学院でパチカン公会議直後まで使用されていた。日本でも開校当初に始まったと推測される。各姉妹校や年代により、種類や色、儀式のやり方に多少の違いはあるが、基本的にお札は“EXCELLENT”、“VERY GOOD”、“GOOD”、“FAIR”という色違いの4種類であった。“no note”(「お札無し」)を申し渡されることもあったようである。全校生徒(初等科生と中・高等科生は別時間)は毎月曜日の午前中に白手袋を着用し、院長様、副院長様、校長様ご列席の講堂に集まる。一人ずつ名前とお札が読み上げられると、生徒は前に進み出て校長様からお札を頂く。渡されたお札は所定の場所に返却した。

JASHだより30号に掲載した「刺繍校章」に関して多くの情報をお寄せ頂き有難うございました。お札についての情報もお寄せください。資料委員会

■JASH ボランティア募集

【お手伝いいただく内容】

「JASHの日」などのイベント、翻訳、海外からの会員の案内、通訳、車の送迎、宿泊提供など。

JASHの活動のお手伝いをしてくださるボランティアを、常時募集しています。申し込みは、JASH Web サイト「JASHボランティア募集」より。

■古切手も集めています！

AMASCは各国の同窓会から古切手を集め、スペインの同窓会が古切手市場で換金して、AMASCの活動に役立てています。使用済切手の周囲5ミリほどを残し、JASH事務局までお送りください。

【シリーズ】

同窓会活動の場を訪ねて③

みこころ会館

最初のみこころ会館は1945年の東京大空襲で本館とともに焼失したため、新みこころ会館建設に向けて、1960年から寄付集め、記念グッズ販売、多数の著名な画家に制作依頼した絵画の展示即売会などの活動が始まり、1963年に現在のみこころ会館が完成した。



旧松方邸を解体した際の材木を使い、竹中工務店の設計施工。現在では稀少になっている和風建築で、庭と共に手入れをしながら大切に使用している。



2016年、みこころ会創立100周年記念事業の一環として会館内改修を行なう。新しくなった一階集会室。常任幹事会、社会福祉部活動等に使用。



二階は畳敷きで会員、在校生のお稽古などに使用されている。



2013年3月AMASC会長、副会長来日の際に茶道のおもてなし。

2019年～2022年 スタディグループからのお知らせ

同窓会の垣根を越えてJASH会員が集い、テーマに沿って今後について語り合い親睦していきましょう、というのがJASHスタディグループです。今回のテーマは「10代の後輩たちに聖心スピリットをどう伝えたいか」です。JASH 事務局(聖心女子大学1号館3階)にて開催予定でした。第1回は2019年10月15日(火)10時半より行われ約20名が参加しましたが、その後は新型コロナウイルス感染症のために残念ながら中止となっております。今後の開催日時に関してはJASH Web サイト(<https://www.jash316.com>)の「お問い合わせ」までどうぞ。

JASH だより
Japan Alumnae Association of the Sacred Heart
2021 No.31

jash316 検索



JASH Web サイト

JASHに関する情報をいち早く掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

<https://www.jash316.com/>

▼ AMASC Web サイトはこちら
<https://www.amasc-sacrecoeur.net>

発行日 2021年3月31日

発行所 日本聖心同窓会(JASH)

発行人 村上直子

編集 JASH役員

住所 東京都渋谷区広尾4-3-1

聖心女子大学 JASH事務局

FAX 03-3407-0671

制作 (株)梁プランニング

学校法人聖心女子学院教育ネットワーク
Sacred Heart Six Sister Schools



日本国内の聖心姉妹校のフェイスブックページをご存知ですか？ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/SeishinNetwork>

学校行事など日頃の学校の様子やトピックスを中心に姉妹校6校の様々な情報を発信しています。